

## トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

## 国有林からの森林資源の供給

～伝統文化財用から最新需要まで幅広いニーズに応えます～

### 【資源活用課】

近畿中国森林管理局では、国有林の公益重視の管理経営を推進しつつ、間伐など適切な森林整備の結果得られる木材については、建築利用の促進や地域における木材の安定供給体制の構築が図られるよう、持続的かつ計画的な供給に努めています。また、多様な森林資源を有する国有林野の特性を活かし、<sup>ひわた</sup>檜皮など民有林からの供給が期待しにくい林産物の計画的な供給に努めています。

### ●伝統的建築物の修復に必要な檜皮を供給しています！

国宝・重要文化財等の伝統的建築物の定期的修復に必要なとなる檜皮の供給に資するため、採取に適した樹齢80年生以上のヒノキ林のうち266haを檜皮採取林として設定し、平成29年度は管内の国有林から約17トンの檜皮を供給しました。公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会によると年間200トン程度が必要ですが、その1割程度を供給しました。

平成30年度においても、滋賀森林管理署や山口森林管理事務所において檜皮の採取を実施しました。

### ●新たなニーズに応じた効果的な木材供給に努めています！

近年、CLT（直交集成材）などの新しい技術を使った建築部材や合板の国産材への原料転換、燃料用原料など国産材の原料としての需要が高まっています。当局ではこれらの需要に応えるために、計画的な森林整備により発生した間伐材等の安定的な供給を進めるとともに、加工・流通コストの削減や地域の林業・木材産業の活性化に取り組む製材工場等と協定を締結して直送する「システム販売」に取り組んでいます。



檜皮の採取 地獄谷国有林（奈良県）  
檜皮は神社等、檜皮葺き屋根の修復などに使用されます。



国産材を使った CLT



国産材を使った合板

## 地方自治体出向者の 会議を開催しました

### 【企画調整課】

林野庁では、多くの道府県庁や市町村役場と人事交流により職員を出向派遣しています。

1月23日（水）局大会議室にて局管内自治体出向者会議を開催し、出向者の各地での取組や、林野庁・森林管理局の取組について情報共有を行いました。

管内自治体への出向者12名のうち8名（京都府、島根県、広島県、山口県、京都府京丹波町、奈良県十津川村、岡山県新庄村、岡山県西粟倉村）が参加し、林野庁から箕輪首席森林計画官、大道木材産業課総括課長補佐が出席しました。

はじめに、出向者から各自治体の現状やバイオマス産業都市、※SDGs未来都市、木材利用促進などの取組内容について紹介しました。人口減少という地域課題を抱えながら、地域の森林や木材を活用した振興策について、様々な工夫をこらして取り組んでいることがうかがえました。



出向者からの報告（島根県林業課巻田主任技師）

また、今年4月から始まる予定の新たな森林管理システムや森林環境譲与税の活用に向

※SDGsとは持続可能な開発目標

けた取組では、林務担当職員が少ない市町村を支援する府県の体制整備が急がれるといった報告がありました。



出向者からの報告（岡山県新庄村中村副村長）

続いて、林野庁から、新たな森林管理システムや森林環境譲与税の各自治体での検討状況、林業成長産業化に向けた川下対策について情報提供がありました。



林野庁箕輪首席森林計画官からの情報提供

森林管理局に対しては、国有林で培ってきた林業技術を民有林に提供できるよう現地検討会の開催などを要望する声がありました。

引き続き、各自治体と様々な機会を通じて情報交換するとともに、森林・林業・木材産業の発展に向けて連携を図って参ります。



## チェーンソー研修の実施 基礎的知識、技術の習得

### 【総務課】

2月5日（火）から7日（木）の間、署等の職員11名が参加して、森林技術・支援センターの会議室及び岡山森林管理署管内の水昌山国有林において、林業機械化センターから講師4人を招き、チェーンソー研修を実施しました。

研修の目的は、伐木造材に関する基礎的な知識や技術、健康障害防止及び危険作業の回避に必要な技術を習得させ、安全で効率的な伐木造材の指導・監督、民有林の森林整備への支援等に必要能力を有する者を育成することとしています。

1日目は、健康障害を防止するために正しい目立てを行うことの重要性について、講義を聞いた後、ソーチェーン目立ての実践演習を行いました。



難しいソーチェーンの目立ての様子

2日目は、現場で伐木造材作業に関する基礎的な知識、かかり木になった場合の対処方法等について学び、その後、講師の指導の下、チェーンソーの基本操作から伐木造材の一連作業の実技を行いました。



玉切りの様子



安全に伐倒するための受口作り

3日目は、チェーンソーの分解・組み立て及び点検・整備方法の実習を行い、初めて分解する研修生も多く、部品の名称、内部の仕組みと構造について理解を深めました。



チェーンソーの分解の様子

3日間の研修を終えた研修生から、「今後の生産現場の請負事業体への安全指導」「伐木造材の基礎的な知識が必要な監督業務」において役立てたいとの意見が寄せられました。

## 「国有林の仕事」講義 ふくい林業カレッジ

### 【福井森林管理署】

1月30日（水）、ふくい林業カレッジの学生を対象に「国有林の仕事」と題して福井森林管理署長が講義を行いました。

これは、昨年5月に福井森林管理署とふくい林業カレッジとが締結した連携協定の一環で実施したもので、昨年行った地上型三次元レーザースキャナシステムの現地学習会に引き続き二度目となるものです。



講義内容について説明

講義は、カレッジ生6人を対象に行いましたが、1年間のカリキュラムも終盤であることから、「公益的機能」や「間伐」などの林業の基礎的なもののおさらいをしつつ、国の役割や国有林という国民の財産を活用した取組の数々を説明し、民有林との違いや森林の公益性、林業の振興、国民参加の森林づくり等について学習して頂きました。

また、林業の仕事は、収入のためだけではなく、環境等みんなのためになる価値のある仕事なので、誇りを持って従事して欲しいと訴えました。



講義の様子

カレッジ生は、約一年間の学習の成果を生かし、現在、就職活動を行っているとのことでしたので、林業事業体に就職した暁には、国有林の現場で再会することを約束し、講義を終えました。

### 連携及び協力する事項

- ①実習、実証、研究等のためのフィールドの提供
- ②人材の育成のための講師派遣
- ③ICT等による低コスト化につながる技術の導入
- ④森林環境教育、その他森林・林業の普及、
- ⑤就業体験等、林業関係機関への就職意識向上のための諸活動
- ⑥その他双方が必要と認められた事項



## お知らせ

## \* 「官庁公開フェスティバル2019」

一般職試験（大卒程度）等より採用される官庁の職場を公開し、官庁ごとに特色を活かした様々な催しを行う体験型のイベントです。（学年次不問、服装自由、要予約）

近畿中国森林管理局では下記により実施します。

開催日 3月1日（金）  
 開催時間 第1回 10:00～11:30  
 第2回 13:00～14:30  
 第3回 15:30～17:00  
 開催場所 近畿中国森林管理局4階 第3会議室  
 内容 林野庁の業務について説明します  
 職員がみなさんの疑問にお答えします  
 事務室を見学していただきます

参加を希望される方は電話にて御予約ください。

予約先は近畿中国森林管理局総務課  
 電話番号：06-6881-3421



みなさまのご参加をお待ちしています！

## 森林のギャラリー（局庁舎1階）

## \* 早生樹から広がる林業近未来展

- ・展示期間：3月1日（金）～3月22日（金）
- ・展示団体：（公社）日本木材加工技術協会関西支部早生植林材研究会  
 （協力）京都府立大学、京都大学、兵庫県立森林林業技術センター、熊本県林業研究指導所

近年、在来種を活用した早生樹植林が話題となっています。特に植栽後20年以内に伐採・利用可能な広葉樹のセンダンは、家具利用だけでなく高品質の合板や木質ボードなどの工業原料としても有望です。

さらに増加を続ける荒廃農地はセンダンの植栽には適した条件の土壌であり、耕作放棄地の対策としても有望です。

センダンなどの早生樹を活用した研究を紹介し、里と里山の未来像を考えたいと思います。また、センダンを活用した試作品の展示や、さまざまな樹種を使った木琴、カホンなどの楽器体験ができる展示も計画しています。



兵庫県宍粟市の荒廃地に植栽されたセンダン（3年生）



センダンのボード類

# シリーズ 『国有林 最前線!』

## 山口森林管理事務所

## ～希少銘木を後世に～

山口森林管理事務所は、山口県内の国有林 8,022ha、官行造林 3,817ha を管理しており、その管轄は名勝「錦帯橋」の借景林で「日本美しい森 お薦め国有林」の一つにも選定された「城山（岩国市）」や、四季折々の渓谷美を魅せる「長門峡（山口市）」、瀬戸内海国立公園に浮かぶ「笠戸島（下松市）」、「黒髪」、「仙島（ともに周南市）」などの国有林があり、山口県の森林面積のうち約 3% と比較的少ないものの、風光明媚な特徴のある国有林を管理しています。

「滑山（山口市）」にはアカマツの巨木が自生しており、樹齢 200 年以上で胸高直径 60cm 以上の優良なものは「滑マツ」と呼ばれ、材は通直で心材は鮮明な赤色をしており辺材も少ないことから内装材としても絶品であると賞賛され、かつては皇居新宮殿「松の間」の内装材や、錦帯橋の橋脚材にも使用されました。

しかし、その後マツ枯れや台風被害などにより本数が激減したため、平成 2 年には滑マツの多く残る区域を「滑山林木遺伝資源保存林」に指定し伐採を禁止、平成 26 年からは有識者からなる「滑マツ保存会」が設立され、希少な銘木を後世に残すために保全と再生に向けた活動にも取り組んでいます。



次世代に続くマツの育成



滑マツ

## 鳥取森林管理署

## 若桜森林事務所

## 首席森林官

## 小野 敦雄

若桜森林事務所は、鳥取県の南東部に位置する若桜町に所在し、若桜町内をはじめ八頭町、鳥取市の一部（旧国府町）の国有林約 6,500ha を管轄しています。

部内の大部分を占める兵庫県との県境地帯の国有林は、貴重な森林生態系を守るために作られた「東中国山地緑の回廊」が設定されており、その中でも大山に次ぐ中国地方第 2 の高峰氷ノ山（氷ノ仙国有林）は春から秋にかけては登山、冬はスキーと一年中多くの方が訪れています。

また、扇ノ仙国有林には、「日本美しい森お薦め国有林」に選定された「扇ノ仙森林スポーツ林」があり、バードウォッチングやツリークライミングなど様々な体験ができます。また、ブナの原生林内には遊歩道が整備され、バンガローなどの宿泊施設もあり、自然の中に癒やしを感じられる場所でもあります。

小舟山国有林では、平成 24 年度から森林共同施業団地 1,403ha を設定し、民有林と国有林が連携して森林整備の推進に取り組んでいます。今後区域の拡張も検討しているところです。



扇ノ仙森林スポーツ林



森林共同施業団地現地検討会の様子